

言語活動の充実を図る国語科指導の実際④

－「読むこと」と「書くこと」の関連を図った授業の工夫－

思考力・判断力・表現力の育成という視点から、「読むこと」と「書くこと」を関連付けた学習指導をどのように計画・実践していくかが重要になる。特に、「読むこと」の学習したことや、自分の考えや意見をもったことなどを、どのように「書くこと」につなげていくかを十分検討する必要がある。

以下は、「書くこと」で読みを深め確かなものにする説明的文章の指導の実践例である。

【実践例】阿久根市立三笠中学校（現在 伊佐市立大口中学校）松元教諭の実践を基に作成

1 教材名 「メディア・リテラシー」（中学校第3学年）

2 言語活動例との関連

【読むこと】イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。

【書くこと】イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。

3 単元の指導計画（6時間扱い）

時間	主な学習活動	
1	1 同じ事件を報ずる新聞を読み比べ、構成や展開、表現の仕方について評価し、メディアが伝える現実とは何なのかという課題意識をもつ。 2 なぜ新聞によって違いがあるのか予想して作文に書く。 3 単元の学習課題をもつ。 小学校6年生に「新聞の見方」を教えるパンフレットを作ろう。	【比べ読み】1 新聞の比べ読みを行うことで、メディア・リテラシーに対する課題意識を持たせる。
2	4 新出漢字を確認し通読する。 5 メディア・リテラシーとは何か、本文よりまとめる。	単元全体の学習課題を設定し、生徒に最終的な目標となる言語活動を確認する。
3	6 「メディア・リテラシー」を読み、文章の論理の展開の仕方に着目しながら筆者の主張を読み取る。 (1) なぜ、「ニュースは『現実』を伝えるものというのは、間違いだ」といえるのか考える。 (2) 筆者がそのような考えるようになったきっかけを読み取る。 (3) ニュースが伝える「現実」とは何かをまとめる。	教材をどのような視点をもって読んでいくのかを明確にする。
4	(4) メディアの利点と限界について本文を基にまとめ、筆者が提案するメディアとの付き合い方を読み取る。 7 「メディアとわたしたち」を読み、内容を比較してパンフレットに必要な情報を読み取る。	【比べ読み】2 他教材との比べ読みを行うことで、メディア・リテラシーに関する考え方を広げる。
5	8 伝える目的と相手を意識させ、「パンフレット」を作成する。 (1) 筆者が具体例をどのように配置して主張につなげていたか考える。 (2) 小学校6年生を対象に「新聞の見方」というパンフレットを作成する。	* 目的意識・相手意識をもった書く活動を計画する。 * 教材で学習したことを、どのように「書くこと」の学習につなげるかを意識させる。
6	9 作成した「メディアパンフレット」に対する感想を知らせ、学習を振り返らせる。 10 互いの「メディアパンフレット」を読み合い、相互評価する。	